

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	器官病態内科学特別演習 I		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病  (消化器内科学) 消化器病学、消化器内視鏡学、超音波医学  (呼吸器内科学) 呼吸器疾患  (循環器内科学) 循環器内科診断学  (腎臓・体内環境調節内科学) 体内環境調節機構  (血液内科学) 造血管疾患におけるゲノム異常  (脳神経内科学) パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、認知症  (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患  (発達小児医学) 新生児、小児  (腫瘍内科学) がん</p>		
担当教員 (下線: 科目責任者)	医	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、講師 森田修平  (消化器内科学) 教授 北野雅之、准教授 井口幹崇、准教授 前北隆雄、准教授 蘆田玲子、講師 井田良幸、講師 山下泰伸、講師 糸永昌弘、講師 田村 崇  (呼吸器内科学) 教授 山本信之、准教授 中西正典、准教授 洪 泰浩、講師 早田敦志  (循環器内科学) 教授 田中 篤、准教授 谷本貴志、准教授 北端宏規、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹、講師 山野貴司、講師 柏木 学、講師 尾崎雄一、助教 太田慎吾、助教 樽谷 玲  (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一、助教 中島悠里  (血液内科学) 教授 園木孝志、准教授 田村志宣、講師 村田祥吾、講師 蒸野寿紀、講師 細井裕樹、助教 山下友佑  (脳神経内科学) 准教授 宮本勝一、助教 中山宜昭  (リウマチ・膠原病科学) 教授 藤井隆夫、准教授 岩田 慈  (発達小児医学) 教授 徳原大介、准教授 島 友子、講師 田村 彰、講師 末永智浩  (腫瘍内科学) 教授 山本信之、准教授 清水俊雄、准教授 洪 泰浩</p>	
	薬		
授業の概要	<p>糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科系の各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。</p>		

到達目標	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病及び糖尿病発症メカニズムを理解する。</p> <p>(消化器内科学) 消化器疾患の診断と治療を高い知識レベルで理解する。超音波・消化器内視鏡を用いた診断・治療法の最先端技術を理解する。</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患の成因・疫学・診療を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における最新の診断学の方法論について理解する。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎不全の病態理解を深める。</p> <p>(血液内科学) 造血器疾患の病態を研究する基本的な解析法を取得し臨床データを扱う統計手法を修得する。</p> <p>(脳神経内科学) パーキンソン病などの難治性神経変性疾患の病態の本質を高い知識レベルで理解する。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患の概念、最新の診断・治療法を学び、現在まで達成されていることと課題を明確に理解する。その上でいかなるアプローチを行えば診療の進歩につながるか、探究すべきポイントを明確にすることができる。</p> <p>(発達小児医学) 新生児・小児特有の疾患について原因と成立機序を理解し、解決すべき課題を明らかにできる。</p> <p>(腫瘍内科学) がんの成因・疫学・診療を高い知識レベルで理解する。</p>
授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病に関する概説的な講義を行う。また糖尿病発症メカニズムに関する最新の文献を読み、教員と議論を行うことにより、糖尿病に関する理解を深める。(松岡孝昭/森田修平)</p> <p>(消化器内科学) ①消化器内視鏡による診断と治療、②超音波による診断と治療、③消化器疾患に対する薬物治療：消化器疾患診療に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、消化器病学に関する理解を深める。超音波・消化器内視鏡を用いた最先端の診断・治療について学び、その理解を深める。(北野雅之/井口幹崇/前北隆雄/蘆田玲子/井田良幸/山下泰伸/糸永昌弘/田村 崇)</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患診療における最近の動向：呼吸器疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、呼吸器疾患に関する理解を深める。(山本信之/中西正典/洪 泰浩/早田敦志)</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における、最新の画像診断法・生理学的診断法：循環器疾患に関する、生体内イメージングを用いた形態学的診断法、圧・流速ワイヤーを用いた生理学的診断法、CT/MRIを用いた非侵襲的画像診断法の基礎知識を概説し、それらの理解を深める。(田中 篤/谷本貴志/北端宏規/黒井章央/塩野泰紹/山野貴司/柏木 学/尾崎雄一/太田慎吾/樽谷 玲)</p>

<p>授業計画</p>	<p>(腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎不全による体内環境調節機構の破綻と病態：腎臓による体内環境調整機構とその理論的背景の基礎となる文献を抄読し議論を行うことで、慢性腎不全・透析医療における基本的な基礎・臨床研究の手法を修得する。(荒木信一／中島悠理)</p> <p>(血液内科学) ①造血器疾患におけるゲノム異常の解析法とその解釈(園木孝志／田村志宣)、②造血器疾患における免疫病態の解析法とその解釈(村田祥吾／蒸野寿紀)、③臨床データの統計学的解析法とその解釈(細井裕樹／山下友佑)：造血器疾患のゲノム異常と免疫病態を研究する基本的な解析法を取得し臨床データを扱う統計手法を学ぶ。研究テーマに即した文献を抄読会で発表し、論文を多角的な視点で吟味することを学ぶ。研究成果を論理的に構築し発表することを学ぶ。(園木孝志／田村志宣／村田祥吾／蒸野寿紀／細井裕樹／山下友佑)</p> <p>(脳神経内科学) ①神経変性疾患研究の最新の動向、②神経変性疾患の神経病理学的・分子生物学的解析手法：アルツハイマー病・パーキンソン病・ALSなど難治性神経変性疾患に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、神経変性疾患の病態に関する理解を深める。(宮本勝一／中山宜昭)</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患(関節リウマチや全身性エリテマトーデス)の歴史、診断・治療法の変遷に触れ、最新の臨床研究・免疫学的研究を概説する。その上で課題の抽出を行えるよう授業を行う。なお関節リウマチについては主として藤井が、その他の膠原病については岩田が担当する。(藤井隆夫／岩田 慈)</p> <p>(発達小児医学) 新生児・小児疾患の原因と成立機序の理解と課題に対する研究立案：発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の疾患(特に、肝臓・消化管、腎臓、神経・こころ、循環器、感染症・免疫、呼吸器、代謝、血液に関する)について、その発生の原因、成立機序について概説的な講義を行う。また、最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより各疾患の理解を深めるとともに解決・解明すべき課題を認識し、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な臨床・基礎研究の計画・立案を行う。(徳原大介／島 友子／田村 彰／末永智浩)</p> <p>(腫瘍内科学) がん薬物療法診療における最近の動向：腫瘍内科に関する概説的な講義を行う。また最新の文献を読み、発表する機会を設け、教員と議論を行うことにより、がん薬物療法に関する理解を深める。(山本信之／清水俊雄／洪 泰浩)</p>
<p>授業の方法・形態</p>	<p>演習を中心とする。</p>
<p>使用するメディア</p>	<p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>
<p>成績評価の基準</p>	<p>研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>
<p>授業時間外の学修に関する指示</p>	<p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)</p>	<p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>

教科書・参考書	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。</p> <p>(消化器内科学) 【教科書】「内科学 改訂第12版」 編集：矢崎義雄、小室一成 出版社：朝倉書店</p> <p>(呼吸器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(循環器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。</p> <p>(血液内科学) 特に指定しない。</p> <p>(脳神経内科学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 【参考書】「リウマチ病学テキスト 第3版」 編集：日本リウマチ財団教育研修委員会・日本リウマチ学会生涯教育委員会 出版社：南江堂</p> <p>(発達小児医学) 特に指定しない。</p> <p>(腫瘍内科学) 特に指定しない。</p>
---------	--